

学校名	栄小学校
実施日	令和 5年 1月 16日

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	本校は、一人一人の児童の自己有用感・確かな学力の育成に対する組織的取組に努めている。	A	今年度の中間評価と比較しても、3. 32→3. 50と上昇している。一人一人の児童の自己有用感・確かな学力を大切に育成する学校づくりを組織的に取組んでいることが、浸透してきている表れであると考え。今後も、職員一人一人の実践を共有しながら、より効果的な手立てを考えていくことで、保護者・地域に信頼される学校づくりをしていく。	A	中間評価から数値が上昇しており、学校の取組が高まっているところは評価できる。今後も児童・保護者・地域に信頼される学校づくりを期待する。
2	学校は、様々な場面において、ICT機器の積極的な活用に努めている。	A	ICT機器の活用について校内課題研究として、3年目を迎えた。今年度は、特に授業での活用に重点をおきながら校内研修を進めてきた。そのことにより、各担当がICTの効果を実感し、積極的に活用するようになった。また、ICT機器の活用が授業の目的になることなく、学習の狙いを達成するための手立て・方策として捉えられるようになってきた。さらに、デジタル・シティズンシップ教育についても教育課程に位置づけ進めている。	A	1人1台の端末が配付されそれを生かした教育活動を行うおうと学校をあげて努力している点は大変評価できる。この調子で積極的に活用していくことを期待する。
3	学校は、「栄小スタイル」(つかむ—考える—表す—ふりかえる)の授業を適切に行っている。	B	主体的・対話的で深い学びの実現にむけて、一斉での教師主導の授業から「児童が自ら学ぶ授業」への転換が求められている。本校でも、自由進度学習を取り入れるなど授業改革に取り組んでいる。そんな中で、栄小で長年かけて築きあげた「栄小授業スタイル」についても、これからの授業のスタイルに合わせてブラッシュアップ行っていく。	B	今までの教育から大きな転換を迎え先生方も大変なところは多いかと思うが、大人数の中で個別最適な学びを実現することを今後期待していきたい。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させ、組織的な運営・責任体制を整備するとともに、働き方改革に取り組んでいる。	B	業務の見直しを行うとともに、ICTを活用しながら負担軽減を進めている。また、分掌会議を定期的に位置づけ組織体制のあり方を見直してきたが、まだまだ一人一人に係る分掌業務に偏りが生じている実態がある。引き続き業務改善に向け取り組んでいく。	B	働き方改革については、少しずつ進んでいるということだが、さらに思い切った取組が必要である。学校ができることにも限りがあるので、ここまでを学校が保護者に示していくとよいと思う。さらに、当たり前に行ってきたことを見直すことも必要である。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて改善計画を考え学校経営を行っている。	A	学校評価から見える成果と課題を明確化し、具体的な改善策を示してきた。引き続き、成果のあった取組については継続すると共に、課題のある取組については適切に改善を考え、実行していく。	A	今後も学校評価を生かした学校経営を期待する。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	コロナ禍ではあるが防災訓練を計画的に実施し、実際の避難行動を想定した訓練を行った。昨年度、危機管理マニュアルの見直しを行い新たに作成できたので、マニュアルを基に常に危機管理意識を高く持てるよう教員研修などを行いながら、安心・安全な学校作りを目指し取り組んでいく。	A	マニュアルに基づいた訓練はできているのでAでよいという評価と、マニュアルに基づく訓練ができているが、安全面についてこれで完璧というのは言いがたい状況の中で、自己満足に陥ることなくとくブラッシュアップしながらこれからも行ってほしいという意味でBがよいと評価が分かれた。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、指導と評価の一体化を重視した授業を展開している。	A	児童の興味・関心から課題を引き出すなど、児童の必要感を高めることを目指し授業を行っている。引き続き、教師が授業のねらいを明確に示し学習したことを的確に評価するよう心掛けていきたい。	A	児童の学力向上のために、先生方が日頃から努力している点を高く評価する。
8	学校は、各教科の指導において「見方・考え方」を軸とした授業を展開し、資質・能力の三つの柱の育成に努めている。	B	ICT機器を活用することで対話的活動がより一層活発に行われるようになり、児童の考えを引き出しながら学力の向上に向けて取り組んでいる。引き続き、学習場面において言語活動を重視した授業展開を行い、思考力・判断力・表現力の育成に努めていきたい。	A	児童の姿を見ると、学校が一生懸命取り組んでいるのがよく伝わってくる。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	年間指導計画を見直しながら、学習指導要領や県編成要領、指導の手引き等に基づき学習指導を行っている。ICTの活用については、さらに学習の内容や学年の発達段階に応じて工夫が必要である。	A	児童の姿を見ると、学校が一生懸命取り組んでいるのがよく伝わってくる。
10	学校は、カリキュラムマネジメントを推進し society5.0を自在に生きる力を身に付けた児童生徒の育成に努めている。	B	総合的な学習の時間などを活用し、教科の枠を超えて学んだことが生かせる教科横断的な学習やSTEAM教育を意図的に取り入れていきたい。	B	社会に開かれた学校づくりを目指す上で、地域や社会の豊富な人材を活用した学習を行うなどさらなる発展を期待する。コロナ渦の中で難しいところもあるがぜひコロナが落ち着いたら実施していただきたい。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いを実践したりできるよう指導している。	B	学校経営の柱にも組み込んだ挨拶について、「あいさつ名人」、「あいさつ達人」の取組に着手し、成果が上げられてきたが、最近、児童の意識が薄れてあいさつができない児童も増えている。まずは、教師がモデルとなり元気なあいさつを行い、栄小の良さを取り戻していきたい。	A	長年児童の登校や下校の様子を見ているが、今が一番児童が地域の人によくあいさつをしている。学校では厳しい評価ではあるが、地域から見ると栄小のあいさつは素晴らしい。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合っ学校生活を送れるような環境を整備している。	A	月に一度のKOKOROタイムが定着しており、いじめの早期発見等に効果を上げている。引き続き「いじめは絶対に許さない」というスタンスで、全教職員が指導にあたっていく。また、コロナ禍であることを鑑み、人権感覚の涵養や相手意識、コミュニケーションの大切さについて学ぶ機会を意図的に作りながら指導を続けていく。	A	日頃の取組の成果が出ているところは評価できる。今後も、いじめのない学校づくりをお願いする。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	B	「栄プライド」(教職員の行動規範)を定め、本校職員であることに誇りをもって指導にあたっている。言葉遣いを含め他者との関わりや清掃指導、体力向上等児童の手本となるような行動をとる意識を常に持ち、定期的に「栄プライド」を振り返りながら日々の指導にあたっていく。	A	「栄プライド」のもと、職員の内張りや児童の様子からよく伝わる。今後も規範意識を高める指導をお願いする。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	コロナ禍により体力向上に向けた全体としての取組を十分に行うことはできなかったが、持久走やなわとびへの取組など、年間を通して計画的に体力向上や運動の日常化へ向けた取組を行うことができた。さらなる体力向上に向け、体育朝会などあらゆる機会を使って、体を動かす楽しさを味わわせられるよう指導にあたっている。	A	コロナの状況が続く中で、持久走やなわとびなどできる取組を行っていることは評価できる。体力テストの数値が県や市の平均に比べて全体的に低いので、コロナ禍ではあるがさらに指導の工夫を期待する。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	A	コロナ禍において、多くの制約がある中ではあるが、子供たちは食事のマナーを守ることができていた。栄養職員が発行する給食タイムズや掲示物が食育の推進及び定着に多大な効果をあげた。給食週間にも全学級で取り組み、食を通して健康教育を推進してきた。	A	多方面にわたり取り組んでいることがよく分かる。これからも健康教育の推進をお願いする。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	A	学校評価に合わせて記述式のアンケートも全保護者からとり、具体的な要望や意見を求めた。把握した要望や意見については、迅速に対応しながら改善を図りつつ、今後の教育活動に反映できるよう体制を整えていく。保護者の考えも多様化している中で学校としてできること、できないことを精査していく必要も感じている。	A	PTAや学校運営協議会などを活用して様々な意見を聞き生かそうとしている姿勢は高く評価できる。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	ほぼ毎日ホームページを更新しながら教育活動の様子等を情報提供することができた。引き続き地域・保護者に開かれた教育活動を展開するためにも、学校便りやホームページを活用し情報発信に努めていく。	A	コロナ禍で、学校の様子を実際に見ることが減ってしまっている中で、学校ホームページを毎日のように更新し、学校の様子を保護者や地域に伝えているところは素晴らしい。大変であるが、今後も学校の様子をたくさん伝えていただきたい。
18	学校は、コミュニティースクールと地域学校協働活動の一体的推進により、社会に開かれた教育課程の編成・実施を行っている。	B	コロナ禍により活動に制約がある中で、学校応援団組織を活用し、保護者や地域と連携しながら感染症対策をして声かけ運動、読み聞かせ活動、学習支援活動、美化活動、見守り活動等行ってきた。今後は、さらに保護者や地域の方と連携しながら、地域の人材を生かした教育活動を展開し、保護者や地域に誇れる学校づくりを進めていきたい。	A	質問10と重なるが、地域との学習面でのつながりもぜひ行ってほしい。